

釧路地域で絶滅が危惧される鳥類

釧路とその周辺地域には、多くの希少動物や絶滅が危惧される動物が生息しています。この地域では、絶滅が危惧されている7種の鳥が、日本の天然記念物として保護されています。その中には、1年中この地域に定住する種もいれば、毎年この地域に渡ってくる種もあります。

定住種

タンチョウ（学名： *Grus japonensis*）、クマガラ（学名： *Dryocopus martius*）、シマフクロウ（学名： *Ketupa blakistoni*）は、釧路の定住種です。つまり、年中この地域にいます。シマフクロウは、世界で最も大きなフクロウの1つです。このフクロウは、鋭い視力と強力な爪を使って、川や小川で魚を捕まえます。シマフクロウは、北海道の中部と東部に加えて、北海道の北にある樺太と千島列島でも見られます。アイヌ文化において、シマフクロウは、村の神であり守り手として崇められています。

大切な訪問者

オオワシ（学名： *Haliaeetus pelagicus*）は渡り鳥であり、冬の間ロシア東部からやって来ます。海岸では、マダラを狙うオオワシを見ることができます。コクガン（学名： *Branta bernicla*）とヒシクイ（学名： *Anser fabalis*）も渡り鳥であり、春と秋にこの地域を訪れます。オジロワシ（学名： *Haliaeetus albicilla*）の中には、冬の間釧路地方に渡ってくるものと、1年中ここにとどまるものがいます。